



全国公立学校教頭会通信 第9号

発行 令和4年2月21日

きずな



全国公立学校教頭会

電話：03-3436-6868

Mail：[zenkokyo@kyotokai.jp](mailto:zenkokyo@kyotokai.jp)

HP：<http://www.kyotokai.jp>

「令和3年度 全国公立教頭会 中央研修大会」

教頭会通信第9号は、令和4年2月10日に開催された「令和3年度 全国公立学校教頭会 中央研修大会」について報告いたします。令和3年度の中央研修大会は、オンライン開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ビデオ配信による自主研修となりました。

## 1 大会名称

「令和3年度 全国公立学校教頭会 中央研修大会」

## 2 開催方法等

開催日 令和4年2月10日（木）

開催方法 「ビデオ・オン・デマンド方式」ビデオ配信による自主研修

研修動画視聴期間 令和4年2月16日（水）～3月31日（木） 全公教ホームページ

## 3 日程・大会の概要

### (1) 日程

- ・開会行事 挨拶 全国公立学校教頭会会長、研究部長
- ・基調講演 演題 「学校における働き方改革のすすめ」
- ・シンポジウム テーマ「働きがい向上させる働き方改革」～働き方をデザインする副校長・教頭の役割～
- ・閉会行事 挨拶 全国公立学校教頭会副会長

### (2) 概要

#### ① 開会行事

(ア)挨拶 全国公立学校教頭会 会長 長谷川 右

新型コロナウイルス感染拡大にともない、自主研修となりましたが、前向きに研修に取り組んでいきたいと思っております。今年度の全国大会（佐賀大会）等、各地で実施できた大会の運営等ありがとうございました。今年度、実施できた研修を全国の副校長・教頭先生方が、今後の職務に生かしていただくとよいと思っております。

(イ)挨拶 全国公立学校教頭会 研究部長 松井 良彰

今年度の研究主題は「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」です。自律・協働・創造の構築に向けて取り組んできました。新型コロナウイルス感染拡大による制限のある中、GIGA スクール構想による ICT 機器の活用や働き方改革に取り組みながら、副校長・教頭先生方が管理職として魅力ある学校づくりを具現化していく必要があると思っております。この中央研修大会の学びも生かしていただきたいと思います。

#### ② 基調講演の内容

演題 「学校における働き方改革のすすめ」～当事者による共同アクション～

講師 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 教育データサイエンスセンター副センター長 藤原 文雄 氏

##### (1) 学校における働き方改革のゴール

～働き方の見直しによる教職員の生活の質や教職人生の充実を通じた効果的な教育活動～

##### (2) 副校長・教頭らしさを生かした学校における働き方の推進

～全体調整を通じた組織開発・人材開発～

##### (3) 「チームとしての学校」の進め方

～相互リスペクトと専門性の結合による一人一人の児童生徒の健やかな成長～

### 支援型リーダーが進める「働き方改革」

学校の「働き方改革」は、学校および教員の業務を整理（スリム化）することなどを通じて、生活の質や教職人生を豊かにし、ひいては「より短い勤務でこれまでわが国の義務教育があげてきた高い成果を維持・向上すること」を目的として進められています。しかし、この学校の「働き方改革」は、過度に結果や手段にこだわり、教職員の納得を得ないかたちで進めれば、かえって教職員の「やらされ感」や「疲弊感」を高めてしまう可能性があります。そうした学校の「働き方改革」の進め方は、児童・生徒に「持続可能な社会の創り手」（新学習指導要領総則）としての主体性を育むという使命を担う教職員の主体性を奪う最悪のシナリオと言えるでしょう。むしろ、教職員の主体性＝自分の意志・判断で行動し責任を担おうとする態度を育むことを目指し、教職員の主体性に基づき「ワクワク」した気持ちで取り組める学校の「働き方改革」を進めたいものです。

### 副校長・教頭が取り組む「働き方改革」

例1：あまり心地のよくないチャイムを鳴らして、教職員が時間を意識し働くよう工夫をする。また、出張に出たら帰校せず、直帰するように送り出すなど勤務時間管理に努める。さらに、分掌の管財係を中心として教職員が自分

たちで考えて、くつろぐスペースをつくるなど、職員室のレイアウトの工夫などの環境整備を応援する。

**例2**：電算化されて字数制限がされるなかで伝えきれないこともあり、費やす時間に見合った効果が必ずしも生み出されないという状況のもと、思い切って通知表の担任所見欄をなくすなど業務のスリム化を図る。

**例3**：職員が生徒指導や保護者対応上の課題に直面した際には、法的・行政的知識を生かして教職員の負担を軽減する。

こうした取り組みを進める際、思いつく限りのアイデアをどんどん実行していくことはできません。教職員が必要と感じたり、実行可能だと考えたりして、受け入れてもらえそうなアイデアを実行します。そうした条件が整わないアイデアの実行は、かえって「逆効果」になります。教職員の受け止め方を想定しつつ実行するあたりは、副校長・教頭ならではの取り組みと言えます。

### 「チームとしての学校」答申における副校長・教頭

副校長・教頭は、学校内外の複雑な調整業務を中心的に担うとともに、各種調査依頼への対応等や、学校内のどの分掌や委員会にも属さない業務を担うなどしています。教職員等がチームとして機能するための調整役として、副校長・教頭の役割は大きく、副校長・教頭の勤務状況を改善することは、学校全体の機能が大きく改善することにつながります。副校長及び教頭は、「チームとしての学校」において、教職員と専門スタッフ等の調整や人材育成等の業務に当たることが期待されており、事務職員との連携や業務の見直し等により、副校長及び教頭が力を発揮できる体制を整えることが重要です。特に、教頭は、事務業務の負担が非常に大きく、校長の補佐や人材育成等の業務を十分に果たしていくためには、教頭の業務の改善を図っていくことは不可欠であり、教頭と事務職員との間での業務の連携・分担を進める必要があります。教員が、より子供と向き合う仕事に取り組み、副校長・教頭が教員への指導等に取り組むことができるように、副校長・教頭や教員が行っている管理的業務や事務的業務に関して事務職員が更に役割を担うことも効果的と考えられることから、学校事務体制の充実を図ることが必要です。

☆副校長・教頭だからこそできる学校における働き方改革があります。

### ③ シンポジウム

- (ア) テーマ 「働きがい向上させる働き方改革」 ～働き方をデザインする副校長・教頭の役割～
- (イ) コーディネータ 埼玉大学教職大学院 教授 安原 輝彦 氏
- (ウ) シンポジスト 東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純 氏  
横浜市教育委員会 首席指導主事 長島 和弘 氏  
全国公立学校教頭会 副会長 布川 広 氏

### ④ シンポジウムの内容

- (ア) 布川 広 氏  
副校長・教頭としての職務内容のアンケート実態調査の報告  
働き方等に関するアンケート結果の報告（職務内容、やりがい、負担、勤務時間、副校長・教頭への相談事項など）  
業務改善の具体的な方策  
支援員の活用、ICTの活用について
- (イ) 長島 和弘 氏  
勤務管理（ICカード等の活用）について  
カリキュラムマネジメントの促進について  
持続可能な学びの推進について  
地域・保護者への理解と協力の大切さについて  
新型コロナウイルス感染症の対応について
- (ウ) 高橋 純 氏  
校務情報化について  
統合型校務支援システムの活用について  
学校での活用状況について  
教育委員会との連携について  
ビジョンを明確にした取組の大切さについて

### ⑤ 閉会行事

- (ア) 挨拶 全国公立学校教頭会 副会長 漆崎 英二

## ビデオ配信による自主研修のご案内

全国公立学校教頭会では全国規模の研修会＜中央研修大会＞を毎年度開催し、教育における喫緊の課題や副校長・教頭の専門性を育む内容を扱い会員の資質・能力の向上を目指しています。昨年度からオンラインでの開催となり、開催日当日のライブ参加は単位教頭会・副校長会の代表参加者（コロナ感染拡大のため中止）その後、記録ビデオを全会員に Web 配信し、自主研修という形で研修成果の共有を図ります。学年末の多忙な時期ではありますが、ご自身の都合の良い時に視聴していただき、ご活用いただければ幸いです。多くの会員の研修参加を期待しております！